



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

「ヒバクシャ国際」署名を世界へ 原水爆禁止2016年世界大会

2016年8月4日～9日にかけて広島・長崎で原水爆禁止2016年世界大会が開催され、広島にて青年分科会、Ring!Link!Zero!2016in 広島（以降RLZ）を開催。全国各地から青年組合員が参加し、運営面でも青年分科会では被爆者証言聞き取りや追体験企画のグループリーダー、RLZでは企画運営や警備の任務を務めるなど企画の成功に貢献しました。

全国と世界と交流 Ring!Link!Zero2016in 広島



8月4日「Ring!Link!Zero!2016in 広島 私たちにできること — 被爆者の思いを受け継いで」には全国各地から約550人もの青年が田中熙巳（たなかてるみ）さんを招いての被爆証言と質疑応答、青年リレートーク、海外青年を交えて参加者全員での質疑応答などに参加しました。

被爆者が高齢化し、日本と世界の核兵器廃絶運動を若い世代が「自分たちにできることはなにか」を考えながら、「ヒバクシャ国際署名」のとりくみを青年のなかでひろげる出発点となりました。

田中熙巳さんの話は「どうしても核保有国を動かしたい。

市民が核兵器で安全を守ってもらおうと思わない、核兵器が使われた結果を考えたら安全が守られるとは思えない」と核兵器に対する思いや「核兵器減らしてきたが1万数千発のこる、中々減らない。保有国だけでなく日本の核政策を変えて欲しい」と「ヒバクシャ国際署名」を呼びかけた思い、署名の意義が語られました。参加者との質疑応答では「なぜ争いが起こるのか」との質問に「根本に格差と差別がある。格差は今の方が大きく厳しいと思う。お互いの気持が離れていきそこにつけこむのが争いで儲ける人。差別を作らないことを考えてほしい。若い時から私もお互いに差別しないためにどうしたらいいか考えてきた」といったやり取りが交わされました。

海外代表も交えた青年のリレートークでは署名の取り組みや平和行進への取り組みが報告され、その後会場への登壇者からの質問という形での全体交流が行われました。職場や地域、学園ですでになんらかの行動に取り組んでいる青年にとっては「まわりの青年とどう一緒に運動を作っていくか」「意見の違う人と、どう対話すれば平行線にならず一致点が見つかるか」など実践的な交流が行われました。「海外の方も同じような悩みを持ちながらそれを乗り越えて実際に社会を動かしているんだと非常に強く胸を打たれ、励まされた」（東京・10代）「自分の周りには興味を持ってくれる同世代が少ない。しかし全国と世界に仲間がいると今回の企画で知り、励まされた」（福島・30代）とお互いに学び・励まし合える場となりました。

その後青年アピールが拍手で採択され、最後に北海道、長野、海外の青年らが核廃絶と平和を求めるコールを行い、会場が一体となり平和への熱い思いを共有しました。





新しい挑戦 第10分科会「青年のひろば」



8月5日第10分科会「青年のひろば」では全国から430人が参加しました。例年行われている「被爆者訪問」「被爆者からの聞き取り」のほかに、証言を行うことができる被爆者が減っていく中で被爆体験・戦争体験の継承について今後を考えようと作られた企画、広島平和公園を中心とした遺跡を青年がガイドをする「碑めぐり」、平和公園内で被爆者の手記を朗読し当時の状況を追体験する「追体験企画」を行いました。

「被爆者訪問」「被爆者からの聞き取り」に参加した参加者からは、「初めて被爆者の話を聞いて、原爆の悲

惨さを感じた」「被爆者が言葉に詰まる姿をみて言葉にできない感情が伝わってきた」といった感想が寄せられました。そして、新しい挑戦として取り組んだ「碑めぐり」「追体験企画」に参加した参加者からは、平和公園内を歩き、いまだに地面の下には、当時の遺骨などが残されていることや碑や史跡の由来を知り「今度は、もっと勉強して自分が話せるようになりたい」（岡山・30代）、「炎天下の中、セミの鳴き声を聞きながら、証言を読んで、本当に五感で当時の様子に思いを馳せる企画だった」（山形・30代）「外に出て証言を読んだことで情景を思い浮かべることができた。」（群馬・20代）という感想が寄せられました。



反核トラックキャラバン

～「青年の未来に核兵器はいらない」想を受け継ぎ21年目



建交労全国青年部は、全労連青年部の協力のもと、7月30日から8月4日にかけて反核トラックキャラバンにとりくみました。これは、全労連青年部がとりくんだ「折り鶴プロジェクト」で集まった千羽鶴を、建交労全国青年部の仲間たちが、東京から広島平和記念公園まで、トラックを連ねて運んでいくとりくみでした。反核トラックキャラバンは、建交労の前身である旧運輸一般青年部の時代に始まりました。『青年の未来に核兵器はい

らない』の想と共に、現在の建交労全国青年部に引き継がれ、今回で21年目を迎えました。

7月30日、東京都庁前出発集会は、全労連青年部の多くの仲間の参加のもと過去最高となる40人を超え盛大に開催しました。キャラバン隊は、デコレーションされたトラックや宣伝カーを各地で乗り継ぎながら、川崎市役所前（神奈川）、静岡、名古屋駅前、京都駅前、奈良駅前、阪急十三駅前（大阪）、元町駅前（兵庫）、徳島駅前、伊予鉄・松山市駅前（愛媛）で各地の県労連や民主団体、建交労の仲間たちの支援をうけて宣伝行動にとりくみ、8月4日、広島・平和記念公園『原爆の子の像』に12,000羽の千羽鶴を納めました。道中、エアコンが利かない、宣伝テープの音が出ない、タイヤが釘を踏んだなどと、様々な困難もありましたが、大きな事故もなく無事に終え、全国の仲間の皆様のご支援に心から御礼申し上げます。《建交労青年部より寄稿》

